

PT (=Physical Therapy) とは理学療法の略称です。

Powerful Tosa!

KPTA
2018
第9号

(公社) 高知県理学療法士協会 広報誌



私のリハビリ体験記

p.2

地域包括ケアシステム
への取り組み

p.5



理学療法週間について

p.8



リレー・フォー・ライフ

p.9

未優ちゃんの

認知症講座
Vol.3

p.12



今回は、
キャラバン・
メイト
について

私のリハビリ体験記

インタビュー

益岡賢一さん

聞き手：濱尾英史

『今回インタビューを受けていただいたのは、50代で脳梗塞を発症され片麻痺を患いながらも、退院後の努力を続け自立した生活を送られている方です。自営業の仕事をこなす傍ら、新たに趣味活動、脳卒中当事者の会でボランティア活動にも熱心に取り組まれています。今回は自らの経験を踏まえ、今の療法士、当事者に向けて伝えたい熱いメッセージを語っていただきました』

● 脳梗塞を発症した時の話を聞かせてください。

発症したのは約10年前。原因はやっぱり自分の不摂生ですね。趣味の世界に没頭しとったのと、アルコールやね。発症した瞬間の記憶と言えば、何とも言えん症状、まずは手の痺れが一番最初。分かりやすく言うと箸が持てんかったね。最初は仕事の疲労やろうと思いつた。女房に車で病院へ積んでいってもらってそこでわかった。



● 発症直後はどんな思いでしたか？

もう絶望よね。言葉では言い表せれん絶望。2週間血栓を溶かす点滴を打ちゆう頃は、絶望、挫折感、不安でいっぱい、一番つらかった時やね。その当時は今思えば人生で一番楽しい時期やったから。仕事も趣味もこんなに楽しくてええがやろうかって思いよった。それが一気に無くなってしまったきね。最初はリハビリもなかったし、あっても気持ちがそれどころじゃなかった。

● リハビリを受ける前のリハビリに対するイメージはどうでしたか？

やったら少しは回復するのかな？っていうくらいのイメージやった。見たこともないしね。

● リハビリの内容や経過はどうでしたか？実際にリハビリを受けてみてどうでしたか？

最初手はまったく感覚がなくてビクともせんし、自分の手じゃない感じやった。邪魔でしかなかった。足の方は最初車椅子から始まって、4点杖から最終的に何も無しで歩くようになって2カ月で外も歩くようになったね。今思えば、彼女と練習で外を歩くことが楽しみやった。日に日に距離も延びていくのが分かったき。遠くまで歩いて帰ってきて、休む間もなく階段の練習もしてね。1時間しか時間がなかったき必死になってやった。達成感もあったしね。それに、自分が歩くことで周りの患者の雰囲気が変わった気がした。同室の仲間とも、今日はどこまで歩いたと

いう話になるし、それで充実感も感じた。ああ、これがリハビリなんだと思っただね。何より自分に自信がついたんですよ。足は動くから家に帰っても何とかなる、怖くないという気持ちになれた。リハビリが大変やったっていうイメージは無いね。一番良かったと思ってるのはね、僕のリハビリの担当になった女の子が最初に私にこう言ったんですよ。「益岡さん、私流にやらせてもらってかまんですかね？」その言葉にグツときてね、「かまん。ついていくからやってくれ。何があっても君の責任にはせんから。」という返事をしたのを覚えちゅう。その言葉が嬉しくて、頼もしかったしやる気が一気に湧いてきたね。



不安と絶望で悶々している人の
心の支えになりたい
当事者の話を伝えたい

- 理学療法士の一言で心が動かされた経験があったんですね。やはりリハビリを進めていく上で、まずは患者様との信頼関係を築くことがいかに大事かということが改めて分かるエピソードですね。退院されたからの生活はどうか？気持ちに変化はありましたか？

退院後にリハビリに対するイメージが変わる出来事があったね。公園でひとりの高齢女性に出会ってね、その人が言うた「私も脳梗塞なんです」という言葉に衝撃が走った。どこからどうみても脳梗塞とは思えなかった。「益岡さん、もう少ししたら足が重たくなりますよ。でも重たくなったら儲けもんです」と言われてね、その後ほんとに足に2Lのペットボトルを提げたような重さを感じるようになった。当事者しか分からん、リハビリでは教わるのができんことよね。大抵の人はここでまた挫折してしまうと思う。入院中はリハビリで良くなったと錯覚しちゃうがよ。それで退院したら歩くことを辞めてしまう。それでまた車椅子に戻ってしまう人がいっぱいおる。続けることが大事ながよ。それが今のボランティア活動を始めたきっかけでもある。



- なるほど。そこが一番ボランティア活動で伝えたいことなんですね。

やっぱり入院中にリハビリで教わったことと、当事者から聞いた話とでは訴えるものが違うんですよ。当事者の話を聞くことで、「ああ、あの人はそんなこともしているのか、俺も試してみよう。」という気持ちを繋ぐことにもなるし、ちょっとしたライバル意識も持てるから引っ張られて自分も伸びていくしね。それと何より、入院中のリハビリの時間がいかに大事な時間かということ、今現在入院している患者に伝えたい。発症後の6カ月をぼんやり過ごしてしてしまったことに後悔もあるし、自分がそういう当事者からの話を聞きたかったというのもある。今リハビリをしていいのだろうか？回復するのだろうか？という不安と絶望で悶々している人の心の支えになりたい。療法士が体の動きに寄り添うことはできるけど、本当に心の中に入っていけるのは自分達みたいな当事者だからね。それに、そのまま家に放り出されても、現実には病院から出ると障害物だらけやし、助けてくれる人はおらんよ。入院中にいかに自信をつけるか、帰っても怖くないという気持ちになれるかが大事ながよ。だからこそボランティア活動を通してあなた方療法士にも、こういう生の声を聞いてもらいたいし、伝えていって欲しい。

- たしかに普段私たち理学療法士は患者様の社会復帰に向けて日々リハビリに取り組んでいるつもりですが、当事者の精神状態や、退院後に待っている現実、続けていくことの大切さにまだまだ理解が及んでいないことを知りました。無事退院できればそれで終わりではなく、その後その人がどう生きていくのか、どう気持ちを繋いでいくのかということに、今以上に意識を向ける必要があると感じました。私も今後のリハビリテーションに向かう姿勢が変わる大変貴重な機会になりました。

『地域包括ケアシステム』への取り組み

福祉部 森野勝憲



日本は、
諸外国に例をみないスピードで
高齢化が進行しています。

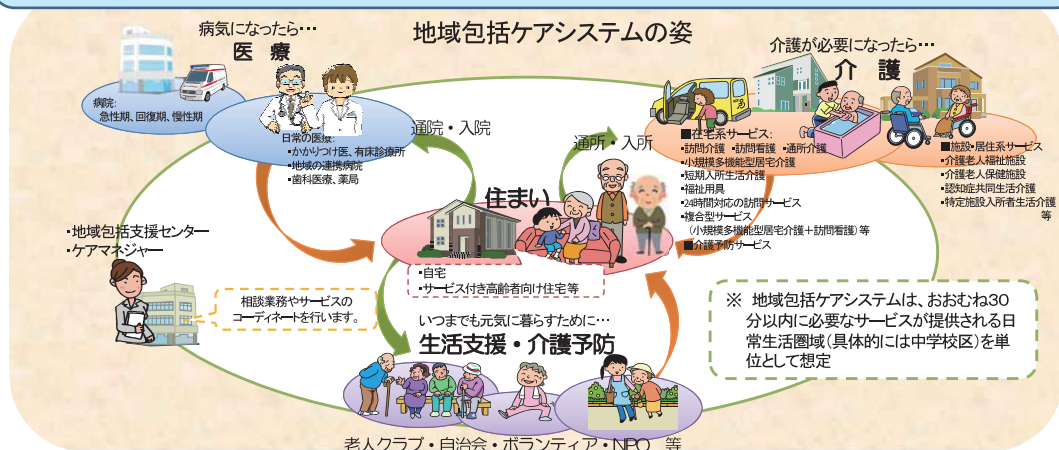
65歳以上の人口は、現在3,000万人を超えており（国民の約4人に1人）、2042年の約3,900万人でピークを迎え、その後も、75歳以上の人口割合は増加し続けることが予想されています。

このような状況の中、団塊の世代（約800万人）が75歳以上となる2025年以降は、国民の医療や介護の需要がさらに増加することが見込まれています。

このため、厚生労働省においては、2025年を目途に、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）の構築を推進しています。

地域包括ケアシステムの構築について

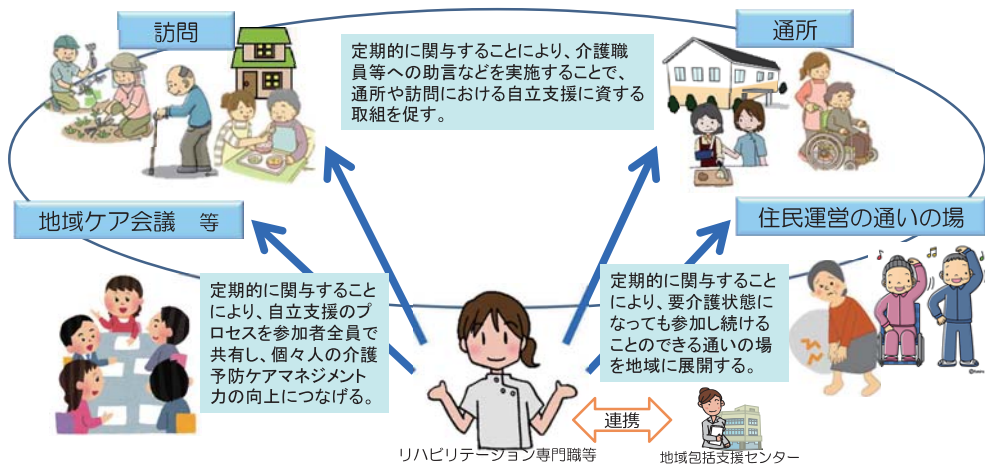
- 団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、**医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保される体制（地域包括ケアシステム）の構築を実現。**
- 今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要。
- 人口が横ばいで75歳以上人口が急増する大都市部、75歳以上人口の増加は緩やかだが人口は減少する町村部等、**高齢化の進展状況には大きな地域差。**
- 地域包括ケアシステムは、**保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていく**ことが必要。



日本理学療法士協会では、『地域包括ケアシステム』を推進するにあたって、「地域ケア会議」、
「介護予防」の2つの施策に重点を置き、地域包括ケアシステムに関わることのできる人材の育
成を始めています。そのための育成制度として、【地域包括ケア推進リーダー】、【介護予防推進
リーダー】の2つの認証コースを設定しています。現在までに高知県内の理学療法士の受講者は
それぞれ118名、114名となっています。また、リハビリテーション専門職（理学療法士、作業療
法士、言語聴覚士）で構成されている高知県リハビリテーション職能三団体協議会は、地域でリ
ハビリテーション専門職が活躍できるよう県内関係各部署と連携をとり、地域包括ケアシステム
構築に向け準備してまいりました。今回は「地域リハビリテーション活動支援事業」について県
内での取り組みを紹介いたします。

地域リハビリテーション活動支援事業の概要

地域における介護予防の取組を機能強化するために、通所、訪問、地域ケア会議、サービス担当者会議、住民運営の通いの場等へのリハビリテーション専門職等の関与を促進する。



リハビリテーション専門職等は、通所、訪問、地域ケア会議、サービス担当者会議、住民運営の通いの場等の介護予防の取組を地域包括支援センターと連携しながら総合的に支援する。

「地域リハビリテーション活動支援事業」は、地域における介護予防の取組を機能強化するために、通所、訪問、地域ケア会議、サービス担当者会議、住民運営の通いの場等へのリハビリテーション専門職等の関与を促進することが目的とされており、具体例としては以下が挙げられます。

◆ 通所、訪問への関わり ◆

日常生活に支障のある生活行為を改善するための効果的な運動プログラムの提案、介護職等への助言等を実施し、通所や訪問における自立支援に資する取組を促します。例えばデイサービスや利用者さんのご自宅に伺い、ご本人や家族、支援者に対して個別にアドバイスを行ったり、事業所の職員に向け勉強会や講話を行ったりします。今年度は介護予防強化型サービス事業所育成支援事業として須崎市と四万十町のデイサービス事業所に対し、自立支援を行うためのアドバイスを事業所、カンファレンスで支援を行いました。

◆ 地域包括ケア会議、サービス担当者会議への関わり ◆

日常生活に支障のある生活行為の要因、疾患の特徴を踏まえた生活行為の改善の見通し、要支援者等の有する能力を最大限に引き出すための方法等について検討しやすくして、自立支援のプロセスを会議の参加者全員で共有し、個々人の介護予防ケアマネジメント力の向上につなげます。県内の市町村で開催される地域ケア会議の一部にアドバイザーとして参加しています。

◆ 住民運営の通い場への関わり ◆

身体障害や関節痛があっても継続的に参加することの出来る運動法の指導、定期的な体力測定等を実施し、要介護状態になっても参加し続けることのできる通いの場を支援します。高知県ではあったかふれあいセンターやいきいき百歳体操など、全国に誇れる取り組みがなされています。理学療法士があったかふれあいセンターや地域の集会所にお伺いし、職員や利用者に対し介護予防啓発の講話や指導を行っています。

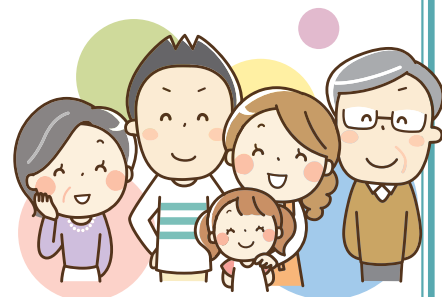


以上のようにリハビリテーション専門職は、今後も地域包括ケアシステム構築に協力し、また地域の方々がいきいきと安心して暮らせる街作りに参画しております。

高知県理学療法士協会は今後も人材の育成に努め、地域貢献、社会福祉貢献を行ってまいります。

理学療法週間イベント報告

広報部
小松由典



理学療法週間とは日本理学療法士協会が設立された1966年7月17日を「理学療法の日」「7月17日」と定め、この日を挟んだ1週間を「理学療法週間」としています。全国の都道府県理学療法士会では、理学療法をより多くの人々に知ってもらうための様々なイベントを行っており、高知県では理学療法の日である7月17日（月・祝）にイオン高知ショッピングセンター専門店街セントラルコートで介護予防・健康増進キャンペーンを開催しました。

買い物中のお客様、高知新聞に掲載した広告を見て参加して頂いた方など、多くの方に足を運んでいただき、足の筋力やバランス能力等、体力測定を行い何が弱いのか認識して頂けるよう説明を行いました。参加者からは「意外と難しいもんやね」「昔より力が弱くなった気がするき、測ってもろうてよかった」などの声上がり、大変好評であったように思います。



その後、高知市が開発した、いきいき百歳体操を高知市高齢者支援課理学療法士の方に説明と実践を行っていただきました。現在高知市では300以上の会場で、市外、県外を含めると1,500カ所を超える会場で行われています。

急速に高齢化が進んでいる高知県、日本ですが、何歳になっても体力をつけることができます。ずっと元気に、理学療法週間では今後も理学療法士の啓蒙活動や高知県民の健康向上を目指して活動を行っていきます。



2017

広報部

小松由典

リレー・フォー・ライフ

リレー・フォー・ライフはアメリカ対がん協会(ACS)が国際ライセンスを持っている企画で、日本では公益財団法人日本対がん協会(以下、対がん協会)にライセンスが与えられています。がん患者さんやそのご家族を支援し、地域全体でがんと向き合い、がん征圧をめざすチャリティー活動です。



開会式の様子

リレー・フォー・ライフ活動の締めくくりとして2日間のイベントを開催します。会場ではチームの仲間とタスキをつなぎ、夜通し歩きます。

高知県では2017年11月3日(金・祝)、4日(土)に高知大学医学部のグラウンドにて24時間チャリティーイベントが開催され、(公社)高知県理学療法士協会も参加しました。私は3日の夜に参加しましたが、昨年より約一カ月遅れの開催ということもあり、少し肌寒い中でのイベント参加となりました。イベントには数多くの団体、病院、企業等、参加されており、24時間交代で歩き続けました。

ただ歩くだけではなく、スタッフの皆さんが用意して下さったおでんやバーベキューを堪能させていただき、冷えた体を温めながら皆さんと楽しく参加させていただきました。



夜のキャンドルアップ



皆さん元気に歩かれています

「幻の黒船カレーを追え」

水野仁輔 (著) (小学館 2017)

探りにヨーロッパへ
カレーライスのルーツを

やはり日本人にはカレーの王道はカレーライスで、国民食である。小生、もう45年もの間、行きつけのカレーライスの店がある。残念ながら高知でなく、大阪なのだ。大阪梅田の阪急三番街にあるカレーライスの店「インディアンカレー」で、メニューはカレーライス一本である。一応、辛いのが苦手な人のためにハヤシライスもあるが、ビーフカレーのみでレギュラーサイズカレーとライスのそれぞれを大盛で注文するしかない。ルーは粗挽きのスパイスで、一口目は甘く、じわじわと辛さが利いてくる、独特の味わいである。10年ほど前に東京丸の内の三菱ビル地下に支店ができたので、出張先の関係もあって、近年はそちらに行くことが多いのだが、大阪と東京はいささか文化が違う。大阪生まれだけあって東京店でもポークカレーはないのだが、東京店内で観察していると、客の半数近くが大阪のメニューにないカレースパゲッティを注文している。東京は、カレーはあってもカレーライスの文化が廃れつつあるのかもしれない。

それでも、この著者は東京人である。カレーライスをこよなく愛するあまり、会社を退職してまで、カレーライスのルーツを求めて、イギリスまで渡って探した、紀行文でありエッセイである。『土佐あかうし』でお馴染みの食生活ジャーナリスト やまけん 氏はこの著者を著述家と評しているが、中学生の頃に読んだ『どくとるマンボウ航海記』のごとく、ユーモアのある軽妙な筆致で、一気に読める。

カレーはインド料理であっても、カレーライスはイギリスから渡って来たと言われている。著者はカレーライス発祥の地にたどり着くことができたのか。このロマンの結末はいかに…。

(山本双一)

街角探訪

今回は少し思考をかえ「車椅子で入れるお店、夜版」
の紹介をしたいと思います。

一期人会 とうふ家 追手筋店

高知市朝倉にて、手づくり豆腐と高知の食材を使った創作和食で地元民に愛される「一期人会 とうふ家」の2号店となる「一期人会 とうふ家 追手筋店」を紹介します。

こちらは「栄養価のもっとも高い手作り豆腐を召し上がって頂きたい」と、本物の味と、高知の旬食材にこだわる店主の思いが詰まったお店となっております。

店舗入り口の緩やかなスロープから始まり、一階は広々とした空間に加え、トイレまでの動線に障害物がないバリアフリー構造となっております。

「バリアフリー空間」を意識した店主の心配りが感じられるお店となっておりますので、是非とも足を運ばれてください。



一期人会
とうふ家
追手筋店



- 営業時間：【平日・土・祝・祝前】 17:00～23:00
(ラストオーダー 22:30)
- 定休日：日曜日、第1月曜日
(日・月が連休の場合、日曜営業、月曜休み)
- 駐車場：なし (近隣にコインパーキングあり)
- 最寄駅：とさでん交通伊野線 堀詰駅 徒歩4分
JR土讃線 高知駅 徒歩5分

高知市追手筋 1-6-11 岡田ビル

ご予約専用番号 TEL: 050-5263-8913

お問合せ専用番号 TEL: 088-873-1028



第3回は、認知症の人と家族への応援者である認知症サポーターを養成する**キャラバン・メイト**について紹介します。今回は **医療法人 恕泉会 内田脳神経外科の理学療法士加賀野井博美さん** にお話をお伺いしました。



【キャラバン・メイトってご存知ですか？】

- **キャラバン・メイト**は認知症サポーターを養成する「**認知症サポーター養成講座**」を開催し、**講師役を務める人**です。キャラバン・メイトになるためには所定のキャラバン・メイト研修を受講し登録する必要があります。



【キャラバン・メイト受講対象者】

- 次の要件を満たす者で、年間10回程度を目安に（最低実施数3回）、「認知症サポーター養成講座」を原則としてボランティアの立場で行える者。

1. 認知症介護指導者養成研修修了者
2. 認知症介護実践リーダー研修（認知症介護実務者研修専門課程）修了者
3. 介護相談員
4. 認知症の人を対象とする家族の会
5. 上記に準ずると自治体等が認めた者
 - 5-1 行政職員（保健師、一般職等）
 - 5-2 地域包括支援センター職員
 - 5-3 介護従事者（ケアマネジャー、施設職員、在宅介護支援センター職員等）
 - 5-4 医療従事者（医師、看護師等）
 - 5-5 民生児童委員
 - 5-6 その他（ボランティア等）

■自治体によるメイト研修修了者の受講要件内訳
*キャラバン・メイト登録名簿に基づく（複数）回答

受講要件	人数（割合）
1 認知症介護指導者養成研修修了者	1,592（1.5%）
2 認知症介護実践リーダー（実務者・専門課程）研修修了者	7,081（6.5%）
3 介護相談員	3,745（3.4%）
4 認知症の人を対象とする家族の会	1,879（1.7%）
5-1 行政職員（保健師、一般職等）	13,474（12.3%）
5-2 地域包括支援センター職員	24,644（22.6%）
5-3 介護従事者（ケアマネジャー、施設職員、在宅介護支援センター職員等）	33,707（30.9%）
5-4 医療従事者（医師、看護師等）	4,780（4.4%）
5-5 民生児童委員	4,272（3.9%）
5-6 その他（ボランティア）等	14,153（13.0%）

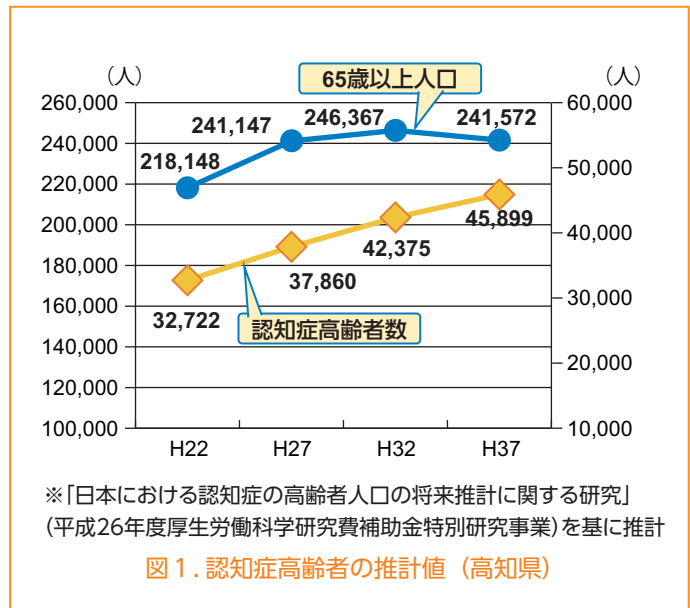
表1. 全国キャラバン・メイト連絡協議会報告より抜粋
（平成27年12月末現在）

【キャラバン・メイトとしての活動】

平成26年にキャラバン・メイト研修を受講し登録をしました。

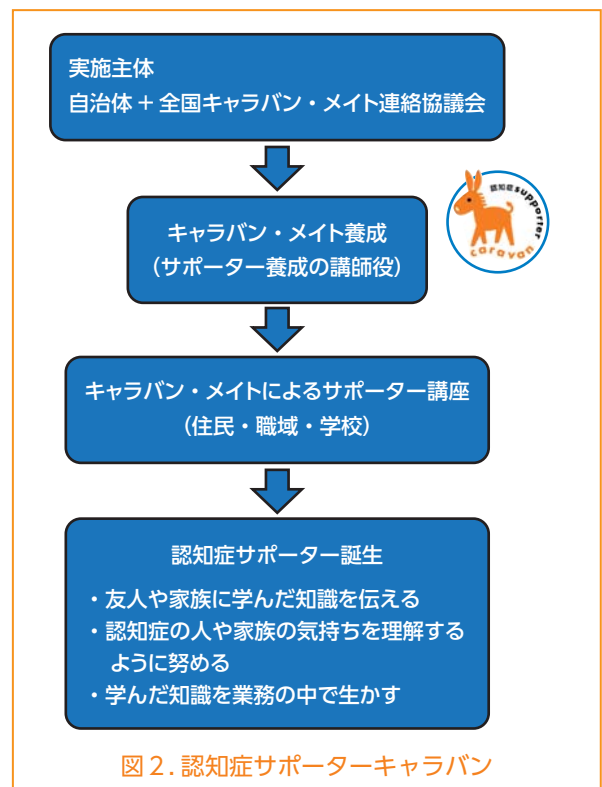
受講したきっかけは、「**全職員が認知症サポーターになり地域に貢献できるようにする**」という方針を勤務先の理事長が立てたことです。内

田グループ（医療法人恕泉会、治久会、社会福祉法人ふるさと会）に入職した、新採用職員（経験を問わず）を対象とする研修の内容に「認知症サポーター養成講座」を組み入れ、キャラバン・メイトとしてサポーター養成を行っています。グループ内での活動だけではなく、自治体である高知市からも要請が年に数回あり、町内会、銀行、保険会社、調剤薬局、診療所、専門学校、職能団体などを対象とすることが多いです。高齢化の急速な進行に伴い、認知症高齢者の増加が見込まれる（図1）という現状を知り、地域全体で認知症高齢者を見守ることが大切だという意識が高まっているように感じます。講座で伝える内容は認知症の基礎知識、症状や対応のポイント、サポーターの役割です。受講者の年齢や職業等、背景は多様なので飽きさせない、興味をもてるように話す、認知症の基礎知識、症状や対応を解りやすく伝える、誤解を招くような表現を使わない、認知症の人の行動で笑いをとるような表現はしない、認知症についてのイメージが暗くて悲惨さを伴う表現に偏らない等、講座の組み立てには工夫が必要ですが、理学療法士として他職種と連携する力、関わる相手に合わせた説明をする力、認知症への対応力という必要な力をつけることにも繋がっていると感じています。



高知県の認知症サポーター数は44,999人、キャラバン・メイト数は2,027人（平成28年12月末実績）です。この数をどのように感じますか。認知症が原因で行方がわからなくなったとして全国の警察に届けが出る行方不明者は2016年に15,000人を超え2012年から過去最多を更新し続けているそうです。認知症の方とご家族が安心して情報を公開できらせる地域づくりが必要だと思います。地域包括ケアの考え方にも繋がりますよね。

全国的にはキャラバン・メイト研修修了者の医療従事者の割合は5%以下であり、介護従事者の6分の1にも及ばないという現状があります（表1）。私たちは医療従事者であり、地域住民です。今後も地域住民として、認知症に関する正しい知識の普及・啓発、住み慣れた地域で認知症の人や家族を支えることができるように活動を継続していきます。皆さんも、ぜひキャラバン・メイト研修を受講し、登録後に地域で活動していただけたらと思います（図2）。



身の回りの相談窓口

地域における福祉・保健・医療・その他の公的な相談窓口を掲載しています。

【高齢者福祉】

① 高齢者の福祉に関する相談 在宅福祉、認知症高齢者、高齢者の虐待防止、 老人クラブ、住宅等改造支援など	県庁 高齢者福祉課 月～金 8:30～17:15 ① 088-823-9627 ② 088-823-9786
② 介護保険に関する相談	
認知症に関する相談	社団法人 認知症の人と家族の会 【認知症コールセンター】 月～金 10:00～16:00 088-821-2818
介護サービスに関する困りごと、苦情など	高知県国民健康保険団体連合会 苦情相談窓口 月～金 9:00～16:00 088-820-8410

【障害者福祉】

障害者の福祉に関する相談 身体障害者手帳・療育手帳、在宅障害者支援、 災害時要援護者支援、障害者自立支援など	県庁 障害保健福祉課 地域生活支援担当 月～金 8:30～17:15 088-823-9634
心身の発達に不安や心配のある児童に関する相談 障害児入所施設の利用に関する相談	高知県立療育福祉センター 相談部 月～金 9:00～17:00 088-844-0035
身体障害者の生活・職業・補装具等に関する相談 知的障害者の生活・職業・療養手帳等に関する相談	高知県立療育福祉センター 相談部 月～金 9:00～17:00 088-844-4477
障害者の日常生活や福祉、介護、就労に関する 相談	社協 障害者相談室 【障害者110番】 9:00～16:00 (第2日曜日、祝日、年末年始を除く) 088-828-8400
視覚障害者の生活相談、訓練に関する相談	高知県立盲学校 視覚障害者生活訓練指導員室 月～金 9:00～17:00 088-823-8820
障害者の雇用促進に関する相談 職業相談、職業能力の判定、職業訓練など	独立行政法人 高齢・障害者雇用支援機構 高知障害者職業センター 月～金 8:45～17:00 088-866-2111

【精神保健】

精神的な悩み、精神障害、社会復帰に関する相談 アルコール依存症、ひきこもり、その他心の健康に関する相談	高知県立精神保健福祉センター【心のテレ相談】 月、水～金 13:00～15:00 088-823-0600
ひきこもりに関する相談	ひきこもり地域支援センター 月～金 8:30～17:30 088-821-4508

【健康づくり・医療業務】

健康づくりに関する相談	県庁 健康対策課 月～金 8:30～17:15 088-823-9674
医療に関する相談	県庁 医事薬務課 医療相談窓口 月～金 9:00～12:00 13:00～16:00 088-823-9668
薬物に関する相談 自分自身や家族等の薬物乱用で困っている方	県庁 医事薬務課 薬物相談窓口 月～金 8:30～17:15 088-823-9797

【国保】

医療保険に関する相談 医療保険制度（国民健康保険、高齢者医療、診療報酬）、医療費適正化計画など	県庁 国保指導課 月～金 8:30～17:30 国保担当：088-823-9646 高齢者医療担当：088-823-9645 保険医療担当：088-823-9645
--	--

【その他】

日常生活自立支援事業（地域福祉権利擁護事業） 福祉サービス利用援助、日常的金銭管理サービス、書類保管サービスの実施など	社協 地域生活支援課 月～金 8:30～17:15 088-844-9019
生活福祉資金の貸付、修学支援などに関する相談	社協 生活福祉資金課 月～金 8:30～17:15 088-844-4600
福祉サービスに関する苦情	社協 生活福祉資金課 月～金 8:30～17:15 088-844-4600
車の運転に関する相談 高齢者講習、熟年学級、など	運転免許センター 8:30～17:30 088-893-1221

問い合わせや相談については、上記の高知県庁や高知県社会福祉協議会等のほか、各市町村担当係、福祉保健所、市町村社会福祉協議会、または、民生委員、児童委員まで連絡をしてください。

入院・入所中の方は、施設内に相談窓口が設置されている場合もありますので、各施設へお問い合わせください。

編集後記



今回の特集では、脳梗塞を発症された方の体験記を掲載しています。発症後の絶望感から壮絶なりハビリの日々や、社会復帰されるまでの体験をインタビューさせていただきました。

当事者の方々や、我々理学療法士に向けた熱いメッセージがひしひしと伝わり、感慨深い内容となっています。

また、今後ますます注目される「地域包括ケアシステム」において、現場で理学療法士がどのように関わっているのかを特集として掲載しています。

恒例となりました「未優ちゃんの認知症講座」では認知症高齢者を地域で支える一翼を担う「認知症サポーター」を養成するキャラバンメイトについて掲載しています。

「街角探訪」は「街角探訪（夜版）」ということで、「車いすで入れるお酒の飲めるお店」を掲載しています。

今回も盛りだくさんの内容となっていますので、是非ともご覧になられてください。

公益社団法人 高知県理学療法士協会 広報部部长 小松 由典

御意見、御要望等ありましたら、下記連絡先までお願いいたします。



高知県理学療法士協会のシンボルマークです。

ばわふる とさ 第9号 平成30年3月10日発行

発行所 公益社団法人 高知県理学療法士協会

(連絡先) 〒781-5103 高知県高知市大津乙 2500-2

土佐リハビリテーションカレッジ 理学療法学科内

TEL & FAX : 088-866-7533

<http://www.kopta.net/index.htm> e-mail: kouhou@kopta.net

発行者 宮本 謙三

ばわふる とさ編集委員会

